



真野秀成さんがパリ2024オリンピックの代表選手に内定しました

リレー(自由形)

3月17~24日に競泳のパリ五輪代表選考会が行われました。男子200メートル自由形決勝で、伊勢原市民の真野秀成さん(セントラルスポーツ)が4位でゴール。3月27日に日本水泳連盟が発表した競泳の日本代表メンバーに選出されました。初の五輪代表入りを果たした真野さんは、7月から始まるパリ五輪に日の丸を背負って出場します。



代表選考会でパリ五輪への切符を手にした真野さん/提供 神奈川新聞社

担スポーツ課 ☎94-4628

市民広報
カメラマン

フォトギャラリー

市内の行事や季節の風景を写真で切り取る「市民広報カメラマン」の皆さんが撮影した、とっておきの写真をコメント付きで紹介します。



春の贈り物

📷 福田伸さん

総合運動公園には、たくさんの桜があります。行く途中、ソメイヨシノの並木が咲きほこり、癒してくれます。これこそ春の贈り物です(総合運動公園で撮影)

ようこそ不思議の森へ

📷 小林厚美さん

ライトアップされた幽玄の世界。光る妖しげな目が「ようこそ不思議の森へ」と誘っているイメージで撮りました(大山で撮影)



もうすぐ春が

📷 中村隆成さん

梅の花と雪の大山、梅のほのかな香り。春が満ち溢れます(雨岳文庫で撮影)

幸運の青いハチ

📷 田中純一さん

巣を作らないハチ。見ることができれば幸運が訪れるようです(粟窪で撮影)



ナミルリモンハナバチ

担広報戦略課 ☎94-4864

広告 くもん書写教室の先生になりませんか **KUMON**

指導者養成プログラムで未経験でも安心!

教室開設説明会 ※25歳~60歳(女性)の方にお願ひしています。

- 横浜 5/15(水)・24(金)・30(木) 10:30~12:30
そごう横浜店 9階 市民フロア ミーティングルームB(「横浜駅」東口よりポルタ地下街中央通路を直進)
- 町田 5/22(水) 10:00~12:00
町田市文化交流センター 5階 会議室カトリア(JR「町田駅」町田ターミナル口直結 プラザ町田ビル 5階)

※当日ご都合の悪い方はお気軽にお問い合わせください。※オンラインも対応しています。

右記日程でオンライン説明会を開催します(各30分)

- 5/15(水) 10:00~15:00
- 5/21(火) 10:00~14:00
- 5/23(木) 16:00~
- 5/27(月) 10:00~
- 5/31(金) 16:00~

【事前予約制】WEBサイトまたはフリーダイヤルよりお申し込みください

ペン習字 かきかた 筆ペン 毛筆

自宅での教室開設も可能です!!

公文書写は全国10万人の方が学ぶ書写団体です
株式会社 公文エルアイエル ☎0120-410-297
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル18F

公文書写 先生 検索

産業能率大学連携企画

包括協定を結んでいる産業能率大学の協力のもと、学生の視点から、さまざまなことをレポートします

学生レポート

「新たな価値創造」の歯車

学生リポーター 市川裕翔さん

竹内型材研究所製作のNINJA RĀTMĀT

コンピュータゲームの対戦をスポーツ競技として行うeスポーツ。近年日本でも盛り上がりを見せているが、伊勢原市でeスポーツに関する製品が作られていることはご存知だろうか。製作を行うのは「株式会社竹内型材研究所」という型材部品メーカーである。マウスを使った素早い操作が重要なeスポーツに使用する、高度な金属加工技術を用いた金属製のマウスパッドを製作している。

自社の強みを分析して生かす
なぜeスポーツ市場に参入したのだろうか。同社ではスマートフォンなどの電子部品に用いられる金型や、さまざまな種類の金属素材の研削・加工を主な事業としている。マーケティングチームの永廣(ながひろ)知史さんによると同社の製品販売は業者向けであり、個人の認知度が低いことが問題となっていた。これを機にマーケティングの観点から自社の強みを精査したという。その結果、「薄くて硬く、平らなものを加工する技術」が核であるということが再認識できた。

認知度の拡大という課題から、個人・家庭向け製品に着目したところ、プログラマーなどの業種では特にコンピュータの周辺機器にお金を多くかける傾向が分かった。その中で、自社のコア技術である金属加工と結びつきが強いマウスパッドに目をつけたのである。ユーザーの反応を見るためにSNSに投稿すると、たちまちフォロワーが増加。思いがけない反応の多さから製作する決断に至ったという。

新たに生み出されたやりがい
「滑り」「止まり」の反応性と耐摩擦性を併せ持つこの製品は、金属製のため長く利用できる側面から、愛着などの新要素も生み出し、布製のそれとは一線を画すものとして市場で受け入れられた。

製品がきっかけで技術力の高さに興味を示すユーザーが現れ、「説明にも熱が入る」と製作を担当した掛布洋平さんは語る。実際に自分が作ったものが評価されることは大きな「やりがい」を生み出したという。これは会社全体にも大きな活気を生み、加工が難しく断っていた素材もマウスパッドに使えないか挑戦するようになった。その結果、日本でも珍しい「GeeLAP」という鏡面研削技術へと昇華した。

どんな要素がかみ合うのかは誰にも分からない。しかし、「挑戦を重ねること」こそが新たな価値創造に直結するのだと実感させられた。